

# 柿 生 文 化

柿生郷土史料館 情報・研究誌

住所：川崎市麻生区上麻生 6-40-1

柿生中学校内

電話：070-1503-6401/044-988-0004

<http://web-asao.jp/hp2/k-kyoudo>

第198号

古老は語る  
宮野薫さんのお話 5

## 岡上の人々と戦争（その5）

（聞き手、筆録、コメント＝小関 和弘(柿生郷土史料館専門委員)）

### 軍馬払下げに関する思い出の記

宮野薫

昭和20年7月頃、私は神奈川県立相原農蚕学校の4年生に在学して居り、1級下のM君と2級下のS君と3人一緒に生田地区の農家に派遣され勤労奉仕の毎日を送って居りました。

私の行った農家は向ヶ丘遊園の南側に位置する押沼という集落で、当時向ヶ丘遊園に疎開して居た軍馬の馬糞を肥料にする為、その動員先の農家のご主人と一緒にリヤカーでよく買いに行きました。

ところが間もなく終戦となり、その軍馬が払下げになると言う事で、家に戻って父にその話をしたら、早くも父はその事を知っていて「薫、明日、馬を貰って来い」と云ったので「だって俺、馬など引いたことなど無いから嫌だ」と云ったのですが、父は「馬は大人しいから平気だよ」と云うのです。



薫さんの父君・宮野隆治さんと愛馬。「我が愛馬」は父君による添え書き。

その父は大正時代に野戦重砲連隊に属し、乗馬姿や馬の首を抱いて「我が愛馬」と添え書きした写真等、アルバムにある程馬は好きだった様なので、自分で行けば良いのにと思いましたが、幸い分家のMさんが「俺も行くよ」と云ってくれました。Mさんは長い軍隊経験のある人なので、馬は操ったかどうかは知りませんが、体格の良い人ということもあり一安心し、一緒に出掛けたのでした。

鶴川から電車に乗り、柿生駅を過ぎた頃、左側に見える農家の庭前に馬が繋がれているのが見受けられ、期待や不安やら複雑な気持ちで稲田登戸駅（現向ヶ丘遊園駅）に着き、直ちに向ヶ丘遊園に向かいました。

ところが、着いてみると、厩は空っぽで担当の士官から「もう払下げの馬は終わりました」と告げられ、ガッカリするより安心の方が強かったのを覚えています。

家に帰って父に「払下げは終わったよ」と云いましたら「何だもっと早く、昨日のうちに行けば良かったのに」と云われたので、またしてもそんなら自分で早く行けば良かったのにと考えた次第です。

栄えある近衛連隊に身を置いた馬が、時代の変わり目とは云え、農耕馬に身をやつすとは何と思ったかは分かりませんが、その馬も又回収されてしまったと聞きました。それから後の馬の運命はどうなったかは知りません。

終戦にまつわる、記憶に残る顛末の一端を述べさせて頂きました。

2024年8月10日記

- ・向ヶ丘遊園は1942(昭和17)年、近衛騎兵連隊の訓練場として接收された。
- ・44年11月に宇都宮から近衛騎兵連隊へ転属した神戸真一氏は12月に「持ち馬」が決まるが、戦車中隊に転属した翌年5月25日夜の空襲に関し「近衛騎兵連隊の兵舎や厩舎に空襲の爪あとではなく(略)兵と軍馬はほとんど疎開して閑散としていた」と記す(ブログ「宮城を舞台にした終戦劇」2024/08/25閲覧)。
- ・角田益信氏「向ヶ丘遊園に疎開した近衛騎兵」(稲田郷土史会『あゆたか』41号(2003年))には「昭和17年ごろ、向ヶ丘遊園に(略)近衛騎兵の馬200頭が東京から疎開」との証言が紹介されている。薫さんの「疎開して居た軍馬」はこれらを指すだろう。神戸氏の記述と照合すると馬が一斉に疎開したのでないことも分かる。
- ・『あゆたか』同号の鶴見邦男氏「近衛騎兵連隊の向ヶ丘遊園駐屯について」には馬の数に比して兵隊が少なく、馬を扱った経験のある地元の青年団員などに訓練補助の依頼があったとの証言が記され、「一部の馬は地元の農家に預けて飼育をたのんだ」ともある。動員先のMさん宅に向かう道すがら、薫さんは農家の庭先に馬が数頭いるのを見たと話しておられる。預けられた馬だったのである。
- ・薫さんの「栄えある近衛連隊に身を置いた馬」との言は、角田氏の記す「近衛騎兵の馬は、良い馬でみんな名前がついていた」との証言と符合する。
- ・『日本騎兵史 下』は敗戦後の軍馬の行方について「内地にあったものもまた四散してどうなったことかと胸迫る思いがする」と記す。武市銀治郎氏『富国強馬』(講談社、1999年)、秦郁彦氏「軍用動物たちの戦争史」(『軍事史学』43-2、2007年)では払下げを9万頭程と推計している。

(続く)

シリーズ  
禅寺丸柿の歴史 8

## 近代における川崎市域及び横浜市北部地域での果樹栽培(8)

相澤雅雄(都筑・橘樹研究会会員)

## 柿生村と岡上村の柿の生産高

明治後期から大正期にかけての都筑郡及び柿生村・岡上村における柿の収穫量や価額を計上した統計書が実見できないために、年次推移を把握しきれないでいる。禅寺丸柿について記述している郷土資料にあたってみても、出典が必ずしも明確でない数値を見受ける。ここでは、当時の関係資料や行政刊行物を使って大まかな数値の把握をしておきたい。明治後期については、明治40年(1907)の副業統計から県下の郡別の柿の生産高をみると、県下全体では334,264貫(1,253.3トン)、このうち都筑郡は89,650貫(336.2トン)と県下で最高であった。いかに禅寺丸柿が都筑郡唯一の特産であった



甘柿禅寺丸柿(明治44年刊『甘柿禅寺丸栽培法』より)  
筆者蔵

かが知れる。次いで足柄上郡の65,090貫(244.1トン)、橘樹郡の43,000貫(161.3トン)と続いた(『神奈川県農会報 第54号』)。なお橘樹郡での果樹栽培は、衆知の通り梨・桃が主流を占めていた。明治44年刊『甘柿禅寺丸栽培法』に「近年登り年の生産価格を郡役所にて調査せしに」と記し、村毎の禅寺丸柿の生産価格を書き上げている。これによると郡全体では10万円で、最大が柿生村の2万1,000円、次いで中里村の1万8,000円、田奈村の1万5,000円、岡上村の9,000円、中川村の8,500円、新治村の8,500円、都岡村の7,000円、都田村の5,500円、山内村の5,500円、新田村の1,500円の順であった。

柿生村が群を抜いていた。また明治44年11月5日付け『横浜貿易新報』に報道された「甘柿禅寺丸柿作況」を読むと、本年は花時に暴風雨が数回あったため産額が平年の三分の一に減ってしまった。さらに大師河原付近の梨が不作で、この余波で買人(バイヤー)が郡内に入り込んでいる。追い打ちをかけるように残暑が厳しいため柿実の成熟が大変に早く、収穫は例年より早く終わってしまう状況にあると報道している。このように果実等の収穫量は、天候に大きく左右されてしまう。

次に大正期における柿生村・岡上村での果実の生産数量の推移を都筑郡役所がまとめた『都筑郡統計書』から追ってみたい。大正2年(1913)の柿生村・岡上村では、梅・桃・梨・柿・ブドウ・栗を産出していたが、この中で最も多かったのは柿の1,125トン、3万円、次いでブドウの5トン、梨の1.6トン、桃の0.5トン、梅の0.3トン、栗の19kgの順で、圧倒的に柿が生産の主流であったことがわかる。しかし大正4年は、柿の生産高は562.5トン、価額2万5,000円と大きく減じている(『大正四年 都筑郡統計書』)。大正10年は、柿は750トン、5万円であった(『都筑郡々勢一斑』)。このように生産が盛んであった背景には、禅寺丸柿独特の風味と甘さが都会の消費者の嗜好にあったためとされている。

## 禅寺丸柿以外の副業と休日

明治41年現在の柿生村及び岡上村では、柿栽培の他に副業として12月から4月にかけて、藁縄を編む農家が250戸を数えた。これは明治38年の両村の全戸数589戸中の42%を占めていた。この藁縄は、荒物屋の店頭で普請仕事用としての需要が多かったという。また大正2年に両村では、1年間に何日の休日(雨正月、晴れ正月、虫送り、風祭りでの臨時の休みは含まない)をとっていたかを『神奈川県農会報 第53号』に掲載された報告によると、柿生村で47日、岡上村で18日取得していた。都筑郡内で休日が多の村は都岡村の63.5日で、最少の村は岡上村の18日であった。郡内12か村における年間の平均休日数は38.7日で、晴れても雨が降っても働き詰めの生活であった姿が休日数から浮き彫りにできる。また11か月にわたり昼夜仕事をした場合に雇用した農夫の給金は、柿生村・岡上村では男性50円、女性は30円であった。なお全県平均では男性45円、女性は23円であった。日雇いの農夫は、早朝に雇用主宅に出勤してから手元が見える夕暮れまで仕事に従事していた。雇用主は3食をだし、家によっては酒、手ぬぐいをだす家もあったとのこと。(続く)

シリーズ  
歴史の中の女性像

その1 ナイチンゲールの世界 (15)

小林 基男(柿生郷土史料館専門委員)

陸軍病院の改善に向けて

フローレンスは、適切な環境で適切な治療を受ければ生命を落とさずに済んだ、数多くの兵士が亡くなっていった現実を何とか改善することこそ、多数の兵士を見送った自分に課せられた使命であると、考えていたのです。彼女は、戦傷が原因で亡くなった兵士よりも、伝染性の疾患で亡くなった兵士の方が遥かに多いという事実気づいていたからです。クリミア戦争は終わりましたが、次なる戦争はいつ始まるかわかりません。次の戦争が始まってからでは遅いのです。ですから軍の病院の衛生状態は1日でも早く改善する必要があったのです。フローレンスは不衛生な環境が原因で、無念の死を遂げた兵士たちのためにも、次なる犠牲者を出すことを防ぎたかったのです。

当時のジャーナリズムは、フローレンスの国民的人気を当て込んで、彼女に従軍記や戦地病院でのあれこれ、さらには自伝など、なんでも良いから書いてくれないかと、あの手この手を使って頼みにきておりました。しかし彼女はそうした依頼は全て断っていたのです。彼女自身書きたい誘惑にかられながらも、そうはしなかったのです。何故なら彼女自身は貧しき人々の味方であっても、世間的にはまさに支配階級の間人であり、その上ヴィクトリア女王のお友達でもあったのです。そんな彼女がクリミアの手記や従軍記を執筆するとなると、陸軍の実態をありのままに記すこととなりますから、そんな陸軍の失態を放置していた政府の無策を白日の下に晒すこととなります。それはまさしく軍と政府を巻き込んだ一大スキャンダルをフローレンス・ナイチンゲールが生み出すことになってしまいます。彼女は何としても、世論の圧力によるのではなく、軍と政府の自助努力によって問題が解決に至る道はないかと、思い悩んでいたのです。

そんなふうに思い悩んでいたフローレンスの下に、願ってもない誘いが舞いこみました。スコットランドに滞在中のヴィクトリア女王から、「クリミアの話聞かせてほしいので、あなたをこちらに招待します」とお招きがあったのです。フローレンスは喜んで誘いに応じました。滞在中フローレンスは、毎日2時間は女王と語り合う時間が持てました。正義感の強い女王は陸軍の衛生状態の

ひどさに憤慨し、陸軍病院の衛生状態の改善を検討するための勅選委員会を作って欲しいというフローレンスの要望をすぐに承諾し、陸軍大臣に勅選委員会の設置を命じたのです。勅選委員会ですから、委員会の経過や結論は、全て議会で報告されます。それゆえ、委員会の作成した報告書は、そのかなりの部分が実際に実行されることとなります。こうしてフローレンスの願いは、実現に向けて動き出すことになったのです。

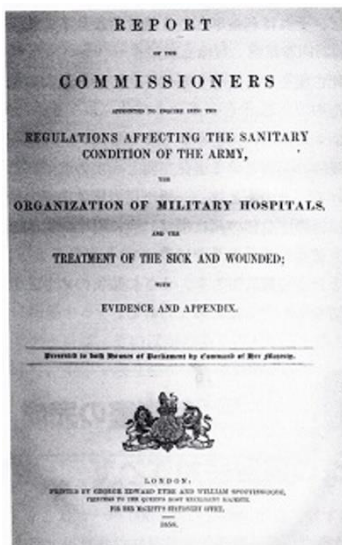


勅選委員会報告書 上下2巻

様々な困難を乗り越えて勅選委員会はスタートしました。しかし、委員の中にフローレンスの名はありませんでした。現代では信じら

れないことですが、時は1856年秋のことです。参政権を持たない女性を公的な政治活動を行う委員会に委員として迎え入れることはどうしても出来なかったのです。いつの世にも抵抗勢力は存在します。その抵抗勢力を勢いづかせることは何としても避けなければならないのです。一方で、フローレンスの証言なしには、委員会の議論は進みません。彼女はロンドンのアパルトマンに居を定め、そこに協力者のチームと籠って、委員会の議論を見守り、手紙や意見書という形で委員会の活動に参加していたのです。委員会の委員長には旧知のシドニー・ハーバートが就きました。

フローレンスはいったいどんな活動をしていたのでしょうか。彼女が父の許しを得て、統計学を学んでいたことは既に記しました。彼女は、国勢調査の分析を専門的に行っていた統計学者ウィリアム・ファー博士、衛生学の権威ジョン・サザーランド博士、そして建築学に詳しい陸軍工兵隊のダグラス・ゴルトン氏らとチームを組み、報告書の作成に実質的に参加していたのです。報告書は1858年4月に完成します。全文1000ページにも及ぶ大作でした。『報告書』本文は85ページなのですが、本文を裏付ける資料部分が400ページ。報告に伴う数表やグラフなどが200ページ、追加の資料が210ページ、さらに詳しい目次や索引に織り込み資料まで加わって、1000ページとなったのです。(続く)



報告書の表紙 当時の書物は受け取った人物や組織が、革製の装丁を施して保存した

## 会告

シンポジウム 小島一也没後 10 年  
～ 今小島氏の業績を振り返る ～ を開催します

日時：11月17日(日) 13時30分～16時

会場：柿生中学校2階 視聴覚室を予定

10年前、2014年(平成26年)12月5日に87歳で逝去された小島一也氏は、2010年(平成22年)11月20日に開館した柿生郷土史料館の誕生に尽力され、初代の支援委員長として、史料館存続の基礎を築かれました。また機関誌『柿生文化』の常連執筆者として、健筆をふるわれる(その成果は、ご遺族の手で『麻生の歴史を探る』として、出版されました)傍ら、大著『麻生郷土歴史年表』を上梓されるなど、郷土愛溢れる書物を多数出版されました。

私どもは、小島氏の遺志を継ぎ、柿生郷土史料館の火を消すことなく、後代に引き継いで行くべく、氏の没後10年の機会に、改めて氏の業績を振り返り、今後の活動に活かしてゆきたいと、皆様のお力を借りながらシンポジウムを計画することと致しました。パネリストには、小島氏のご遺族や小島氏と深いつながりのある方、郷土史誌研究者の皆様をお願いしております。フロアからも多数のご意見をいただきたく、皆様の積極的な参加をお待ちしております。



第8回セミナーで講演される、ありし日の小島一也氏

柿生郷土史料館

- ◆ パネラー：板倉敏郎(柿生中学校元校長)、新井 悟(教育委員会文化財課学芸員)、菅原節生(修廣禅寺前住職)、小島澄人(柿の実幼稚園園長)
- ◆ 司会進行：小林基男(柿生郷土史料館専門委員)

柿生郷土史料館友の会  
第15回史跡見学バスの旅

## 横浜・横須賀巡り

～近代の幕開けと現代の日本を見つめる1日～

日時 2024年11月21日(木)

集 合：7時45分 新百合丘駅北口(21ビル前の歩道)  
解 散：18時30分頃 新百合丘北口 その後柿生駅近く  
募 集：45名 最低催行人数30名  
参 加 費：11,500円(昼食付き)  
申し込み：往復はがきに参加者全員の住所、氏名、年齢、連絡先電話番号を記入の上、柿生郷土史料館まで、メールでの申し込みも可  
主な見学先：三溪園、横須賀軍港めぐりと自衛艦見学、横浜開港記念館、赤レンガ倉庫

## 送付先：

〒215-0021 川崎市麻生区上麻生6-40-1 柿生中学校内 柿生郷土史料館

## メール送付先：

marat17930713@mail.fcservice.jp

## 申込締切：

11月10日(日)(延長しました)

問合せ先：小林基男 080-5513-5154 またはメール marat17930713@mail.fcservice.jp

## 柿生郷土史料館 開館日のご案内 【参加自由、入場無料】

◎開館日：11月3・17・24日(日曜日)

12月7・14・21日(土曜日)

◎開館時間：午前10時～午後3時